

〔論 文〕

アイルランドにおける図書館の歴史の変遷

藤 野 寛 之

I はじめに

図書館は「社会機関」あるいは「社会制度」であると言われる¹⁾。「機関」であるか「制度」であるかはさておき、ここが「社会的な仕組み」のもとで形成されていることに間違いはない。すなわち、図書館はそれぞれの社会のなかでその民族により作られ、育てられてきた。そうであるからには、その社会(国)の民族性が反映されているはずである。わが国では、アメリカやイギリス、部分的にはドイツやフランス、中国の図書館が主に紹介されてきた。いずれの国にも図書館を作るためのそれぞれの努力があったはずであるが、他の小国については、ヨーロッパといえども、主として特定の地域のみ紹介されてきただけであった²⁾。こうした国々における経験についても、わが国の図書館とその歴史を考えるうえで重要ではなかろうか。

本研究で取りあげるのはアイルランドの図書館である。なぜアイルランドなのか、それは、この国が中世期までは輝かしい写本文化の伝統を持っており、その修道院図書館で育った学者は各地、特にカール大帝のカロリング朝ルネサンスを支え、アイルランド地方の修道院図書館で筆写されたラテン語の写本は、ヨーロッパ各地(ザンクトガレン、その他)の図書館で今なお貴重な資料として保存されているにもかかわらず、16世紀から20世紀にかけての図書館の発達に伴い悩んでいたように見えるからである。1915年にカーネギー英国財団(Carnegie UK Trust)の依頼でまとめられた『アダムズ報告』³⁾では、アイルランドの公共図書館が、イングランドはもとより、スコットランドやウェールズの公共図書館と比べても、その数がはるか

に少ないデータが示されてあった。その理由について調べてみようと考えたのが本研究のきっかけである。

もちろんのこと「発達が伸び悩んでいた」というのは「試みがなかった」ことを意味するのではなく、図書館を設立する努力は続いていた。18世紀からは、文化団体の図書館、会員制図書館、職工講習所の図書館といった各種図書館がいくつかの都市で試みられてはいたが、そのほとんどは断続的であったか、あるいは短命であった。なかには競売にかけられて姿を消した図書館すらあった。現代的な図書館の設立が活発になったのは、共和国が完全に独立した1937年以降であるが、それ以後も「南」と「北」は対立を続け、本格的な図書館システムと全国的な協力体制の確立が遅れた。北アイルランドとアイルランド共和国合同の図書館会議が開催されるようになったのは1963年以降のことである⁴⁾。もちろん、イギリスやアメリカに在住するアイルランド系市民からの寄付もあり、政府もこの方面の文化政策には力を入れてきているために、現在では、各都市の図書館コレクション形成は軌道にのっている。

アイルランドで、何故このような事態が起こっていたのか。図書館の発達が伸び悩んだこの国の一面は、その政治・歴史的背景、風土的背景、宗教的背景、言語的背景、民族的背景から検証できると考え、以下にその概要を記すこととした。本論考のための基本文献となっているのは、アイルランド図書館に関する単行書と論文(「参考文献」一覧を参照)であるが、アイルランド史そのものに関する図書も多い。本研究そのものがアイルランド文化史の一考察だからである。近年のこの国の図書館運動について

Page:2

Mar. 2017

アイルランドにおける図書館の歴史的変遷

により見ておこう。

表4で明らかなことは、1861年から1871年の間にカトリック教徒の数は、市部と郡部では減っているのに対し、プロテスタント教徒の数は郡部では大幅に増加し、市部ではわずかに減っていることである。識字率の低さは、カトリック教徒の間で歴然であり、特に郡部で著しい。とはいえ、主に農村部が占める郡部での識字率が50%前後であったことは、19世紀後半のヨーロッパではむしろ高いほうである。例えば農奴解放のあったロシアでは1894年の国勢調査によると全国民の識字率は21.1%であった⁹⁾。これは、アイルランドでは農村部とはいえ教育に熱心な人々が多くいたことを示している。

III 基本データ：文献

ケンブリッジ大学出版から2006年に刊行された『ケンブリッジ・イギリス・アイルランド図書館史』¹⁰⁾におけるアイルランドの扱いを見てみよう。全三巻（総計1990頁）のうちでアイルランドが項目として取りあげられているのは、第一巻22頁、第二巻7頁、第三巻23頁である¹¹⁾。全体からみるとわずかな頁しかあてられていないのに書名が「イギリス・アイルランド図書館史」となっているのは、スコットランドやウェールズは「連合王国」内であるのに対して、アイルランドは現在では独立の共和国であるためであり、しかも、歴史的なかわり、すなわち、20世紀以前の図書館史でアイルランドを省略するわけにはいかないからであった。

表3 連合王国の図書館員の年収¹²⁾

	イングランド	ウェールズ	スコットランド	アイルランド	総計
£ 100 以下	33	11	25	19	88
100-200	37	9	5	4	55
200-300	33	2	7	1	43
300-400	25	4	4	—	33
400-500	16	2	2	—	20
500-600	31	1	3	1	36
600-700	10	—	3	—	13
700-800	9	—	1	—	10
800-900	13	—	—	—	13
900-1000	8	1	2	—	11
1000-1500	27	2	4	1	34
1500-2000	23	1	1	—	25
2000-3000	16	—	—	—	16
3000-	41	1	4	2	48
図書館数	322	34	61	28	445

表4 5歳以上の非識字人口とその分布（括弧内はその地区の非識字者の割合）¹³⁾

	カトリック	プロテスタント			
		監督派教会	長老派教会	メソジスト	その他
郡部 1861	202,296 (54.0%)	342 (11.9%)	67 (7.0%)	98 (6.4%)	43 (10.8%)
郡部 1871	160,001 (45.9%)	2,468 (9.0%)	48 (4.6%)	120 (6.0%)	477 (16.3%)
市部 1861	21,686 (36.8%)	875 (9.1%)	34 (4.5%)	34 (4.4%)	34 (4.6%)
市部 1871	19,830 (33.7%)	502 (6.0%)	38 (4.3%)	23 (3.6%)	55 (6.0%)

もう一つの数値データをこの本からあげておこう。全三冊の巻末にまとめられた「主要参考文献」の総数は2,211点であるが、そのうちでアイルランド関係（はっきりとアイルランドと分かるもの）は119点（約5%）であった。その内訳は第一巻（To 1640）に20点、第二巻（1640-1850）に16点、第三巻（1850-2000）に83点である。この119点の文献のうち、1945年以前に発表されたものは28点であった。いかにアイルランドの図書館について取りあげる機会が少なかったかこの数値は示している。これに反して、スコットランドやウェールズは、単独で、もしくはイングランドと併せて取りあげるケースを含めると、きわめて多かった。

三冊のアイルランド図書館史を扱った各章における頁数のなかで気づくことは、第一巻（中世）に対して、第二巻（近世）、第三巻（現代）における扱いが少ないことであろう。以下、各巻が何を取りあげたかを調べてみた。

第一巻には「中世初期のケルト・イギリスおよびアイルランド」¹⁴⁾の章（22頁）があって、アイルランド図書館史の栄光の時代が扱われている。中世ヨーロッパの混沌とした時期にひきかえ、アイルランドのキリスト教文化は、紀元5世紀以降、最高の繁栄を示していた。イングランドを経由してアイルランドに根づいたケルト人の宗教文化は二つの方面で開花していた。その一つはローマ帝国後期の学問を受け継ぐ学者集団の輩出であり、彼らはヨーロッパ大陸にキリスト教の伝統を逆輸入して知られた。第二には修道院図書館の運営と写本の遺産であった。ヨーロッパの図書館に渡り、現在に残された中世写本の数はそれほど多くないが、それがアイルランドでどのように作られていたか、写字生はいかに訓練されていたかについての調査は近年進んでいる。

『ケンブリッジ・イギリス・アイルランド図書館史』第二巻で扱われているアイルランドは、項目にすると「ベルファストの地方図書館」¹⁵⁾（7頁）だけである。他に記述がないということは、17世紀半ばから19世紀半ばに至る2世紀

の間、アイルランドには図書館の記録がほとんどなく、あったとしても各地でのいくつかの試み程度であった事実を示していた。18世紀半ばから19世紀にかけてベルファストに各種学会（医学、自然史、哲学）が設立され、図書館が設置されたのは、この都市が北海に開けた商業戦略的な拠点であり、造船業を発達させ、商人が都市の繁栄を支えたとともに、イギリスの資本がここに投下されていたからである。市の評議会は1882年に「公共図書館・博物館法」を採択していた。

第三巻での扱いはさらにはっきりしている。ここには「アイルランド図書館の情景」¹⁶⁾（13頁）と「アイルランド国立図書館」¹⁷⁾（10頁）の二章がある。前者では、公共図書館は20世紀初頭におけるカーネギー英国財団による建物のための資金提供の刺激があるまで発達は限られており、これを阻害していたのは、19世紀半ばの記録的な飢饉であり、各都市での納税の実権を握っていたイギリス人不在地主による、農民の教養に対する反対意見であることが述べられていた。この章の記述の大部分はカーネギー図書館についての歴史である。1940年代にカーネギー英国財団の資金援助が途絶えるとアイルランドの公共図書館は、その後の1960年代まで停滞を続けていた。1940年代以降の活動についてこの章では以下のわずか数行しか記載されていない。その箇所を翻訳すると以下のとおりである。

「カーネギーの支援によるアイルランド共和国の初期の公共図書館の発達は、『公共図書館法』の採択に部分的な役割を果たした1947年の『図書館評議会』の設立はあったにせよ、1940年代後半のカーネギーの支援停止の後には頓挫していた……ようやく、1960年代の有利な経済環境のもと、共和国の図書館の不十分な蔵書と予算に対する図書館評議会の報告に従って、戦後の財政支援が行われ、1980年代の景気後退の時期の予算削減はあったものの、おおむね、順調な発達を続け

Mar. 2017

アイルランドにおける図書館の歴史的変遷

た。一方、北アイルランドでは、1973年以降に各カウンティとは別に5回にわたる教育・図書館局の法律改革により、図書館の教育的役割を高める措置が講じられていた¹⁸⁾。」

IV 基本データ：国立図書館

『ケンブリッジ・イギリス・アイルランド図書館史』第三巻の「アイルランド国立図書館」の章もまた、この国の発達の遅れを如実に示していた。

ダブリンには、ヨーロッパで最も古い大学の一つであるトリニティ・カレッジ(1592年創設)があり、ここにはエリザベス一世による大学創設直後から図書館があって、1801年に納本制度が確立されていたにもかかわらず、現在の蔵書は約600万冊¹⁹⁾(オックスフォード大学ボドリー図書館の蔵書は約1200万冊²⁰⁾)である。貴族のために設立された最古の会員制図書館「マーシュ図書館(Marsh's Library)」は、1707年の創設という、イギリスの会員制図書館に先行する存在であったが、今では歴史的な遺産であり、蔵書は300冊の写本以外には約3万冊があるだけである²¹⁾。

アイルランド国立図書館がこのダブリンの地で開館したのは1877年であり、ここがアイルランド共和国の法定納本図書館となったのは、実に1927年のことであった。この図書館の前身機関は創設1731年の会員制となるダブリン協会であったが、1749年に王室の勅許を得ていた。1830年代にダブリンのカトリック教会司教のダニエル・マレー(Daniel Murray, 1768-1852)が会員に応募したが、申し込みは拒否された。カトリック教徒が加入できる組織ではなかったのである²²⁾。この事態を憂慮したイギリスの下院議会により任命された特別委員会は、ここのコレクションを全市民が利用できるアイルランドの「国立図書館」とするよう勧告した。1877年に「ダブリン科学博物館・美術館法(Dublin Science and Art Museum Act)」が制定され²³⁾、王立ダブリン協会は「国立図書

館・国立博物館」として発足したが、1900年にはロンドンの農業技術省の庇護のもとに移管され、技術資料を中心としたコレクションの強化を図っていた。内戦の時期には図書館が一時閉鎖されていたこともある。アイルランドが独立した後の1924年に国立図書館はアイルランド教育省の所轄下に入り²⁴⁾、1927年には国内刊行物の納本図書館となった²⁵⁾。1959年、資料の保存スペース解決のため、隣接のトリニティ・カレッジの敷地内に国立図書館も利用できる閲覧室を建設し、資料は両図書館から送付できるようにする計画があったが、計画は翌年には放棄された²⁶⁾。今度はダブリン・カトリック教会の司祭がトリニティ・カレッジへの協力を拒否したのである。カトリック教徒とプロテスタント教徒(アングリカン教会)との対立はなおも影を落としていた。1968年にアイルランド教育省はバーミンガム大学図書館長のケネス・ハンフリーズ(Kenneth Humphreys)をコンサルタントとして招き、国立図書館の運営全体についての報告書をまとめさせた²⁷⁾。この報告書は刊行されなかったが、建物の問題の解決を最優先の課題として勧告していた。さらに、国立文書館との合併も問題としていたが、これは実現しなかった。「国立図書館・国立博物館」の監督官庁は何度か変わり、芸術・文化・アイルランド語使用地方省の所轄となったのは1992年であった。1989年には、館長のポストが公募され、初の女性館長パトリシア・ドンロン(Patricia Donlon)が就任した。館長ドンロンは、民間の刊行物であった全国書誌『アイルランド出版記録(*Irish Publishing Record*)』を国立図書館による編纂とし、2004年からはこれを電子媒体による提供へと切り替えた。彼女は1992年には『戦略計画 1992-1997(*Strategic Plan 1992-1997*)』を刊行して、この図書館のコレクション・サービス・建築の将来構想を発表した。2002年にこの図書館は近代アイルランドの二大作家であるウィリアム・バトラー・イェーツ(William Butler Yeats, 1865-1939〔詩人])とシーン・オケーシー(Seán O'Casey,

1880-1964〔小説家〕の個人蔵書も獲得している。2005年には「国立文化機関法 (National Cultural Institutions Act)」が改定され (1997年制定)、国立の図書館、博物館、美術館は国家の庇護のもとに独自の発展を保証された。こうして、約140年の歴史はあったものの、アイルランド国立図書館は波瀾に富んだ歴史のなかで揺さぶられ続けていた。国立図書館に限らず、この国の図書館は1960年代まで、すべてが安定の基盤を持っていなかった。

V 背景：政治

19世紀アイルランドにおける図書館運動の伸び悩みは、この世紀が「合同法」によりアイルランドがイギリスの完全な統治下にあり、イギリス当局がカトリック教徒を排撃していたことで説明できる。ここでまず、アイルランドの歴史を振りかえっておく必要があるだろう。

ケルト人がアイルランドに渡来したのは紀元前5世紀であり、イングランドではその後サクソン人がケルト人を追い出していた。聖パトリック (Saint Patrick, c.389-c.461) が、ローマ教皇から布教を委託され、アイルランド島内を巡回して各地にカトリック教会を建てたのは紀元5世紀の前半であったが、この地ではすでに奥地に多数の修道院が出来ていた。アイルランドの学問と写本の伝統が知れ渡ったのはこの時期であった。

8世紀末より10世紀にわたるデーン人 (ヴァイキング) による略奪で、各地の修道院は破壊され、修道士たちは写本とともにヨーロッパに逃れた。11世紀に入りデーン人の勢力はアイルランド国内を統一したブライアン・ボル (Brian Boru, c.941-1014) の活躍によって弱まったが、その後も国内の勢力争いや12世紀のノルマン人の侵略によりアイルランド国内の荒廃はしばらく続いた。しかし、外敵による侵略と破壊も、島の東部海岸を拠点としたもので、豊かとはいえない内陸部にまでは及んでいなかった。そこには政治的な統一はなく、16世紀からは統一国

家イギリスの影響が浸透しやすい状況に置かれていた。

16世紀に始まった宗教改革の波はイギリスを巻き込み、カトリック教徒の拠点のフランスとスペインに対抗していたチューダー王朝のヘンリー八世およびその息子のエドワード六世はプロテスタント教徒を保護し、特にヘンリー八世は、カトリック教会の特権と財産を縮減して再分配するなど国内統治の強化に努めた。続いてメアリー一世は、国内の反対を押し切ってスペイン皇太子と結婚、新教徒の弾圧に乗り出したが、その治世は長くは続かず、ヘンリー八世の娘エリザベス一世が即位し、スペインの無敵艦隊を打ち破ると、ヨーロッパにおける勢力均衡はイギリスにとって有利なものとなっていた。エリザベス一世がイギリス国教会 (アングリカン教会) の盟主となると、その勢力はアイルランドにも及んだ。エリザベス一世によりダブリンにトリニティ・カレッジが1592年に創設されると、ここはイギリス国教会の拠点となった。トリニティ・カレッジは当初、カトリック教徒の入学を許さず、この禁制が解除されたのは1793年であった。

17世紀と18世紀には、イギリス国王がさらにアイルランドの支配を強めていたが、君臨した国王はプロテスタント教徒とカトリック教徒が交互に即位していたため、アイルランドのカトリック教徒の農民は時期により息をふきかえしたり、過酷な弾圧を受けたりしていた。カトリック教徒がはっきりと弱い立場に立たされたのは、18世紀のハノーヴァー王朝期であり、それを決定づけたのは1800年の「合同法」によるアイルランドのイギリスへの併合であった。こうした17世紀以降の間に、土地はイギリスから入りこんできた地主のものとなり、19世紀初頭には、土地の大部分はイギリスの大地主の所有となっていた。彼らの多くはイングランドに住む不在地主であった。1840年代後半にはジャガイモの立ち枯れ病による飢饉の影響で、農村の人口は半減した。一晩のうちに畑全体が真っ黒になって、ジャガイモが全滅するという伝染病

Mar. 2017

アイルランドにおける図書館の歴史の変遷

であった。特に西部の諸州での被害が大きかった。農民の多くは国を捨てて国外に脱出した。イギリスやアメリカへのアイルランド人の大量移民はこの飢饉の結果であった。

19世紀に入り独立のための民族運動が激化し20世紀前半まで続いた。第一次世界大戦でイギリスがドイツと交戦し、アイルランドの若者の多数がヨーロッパ戦線に駆り立てられると、民族独立の機運は1916年のイースター（復活祭）蜂起により最高潮に達した。イギリスはアイルランドから撤退することを決めた。それに続く数年間は見解の対立する各派が争いを続けた。1922年に「アイルランド自由国」としてイギリスから独立した時には、プロテスタント教徒の多いアルスター地方（北部6州）は南部とは袂を分かつていた。エール（アイルランド共和国）が成立したのは1937年であり、続く第二次世界大戦の間には中立を守ったものの、かえって、ヨーロッパ諸国からは離反した立場となっていた。南北の二つのアイルランドの間では、その後も攻撃と破壊が繰り返された。

VI 背景：風土

それほど高い山がない島国アイルランドは、一年を通じて西風にさらされる。この島の西部一帯は荒涼たる岩地であり、アラン島やモハーの崖にみられる「おっかない美しさ（テリブル・ビューティ）」²⁸⁾を見せている。ここで勢いを止められる西風は、海峡を隔てた東のイングランドを保護していた。風はわずかな表土をも運び去るので、農地は石積みの垣根で囲まれ、冬にはバスが通れない場所もある。アイルランド農民の貧しさは、こうした地理的な特徴に由来していた。

羊毛以外にさしたる産業もなく、わずかな穀物生産はイギリスに輸出され、農民は18世紀よりジャガイモを主食とする以外に生きる手段はなかった。北部のベルファストに織物と造船産業が発達したのは18世紀になってからであった。ジャガイモは痩せた土地にでも栽培できた

し、これといった農具は不要で、水と火さえあれば食料として生活を保てた。飢饉によりこの主食が失われた19世紀半ばには、農民は国を捨てるより他に手段がなかった。

アイルランド人は法律で土地の所有に制限が設けられていたが、不在地主の小作農であっても、子どもたちの教育には熱心であった。子どもたちは主に「垣根学校（ヘッジ・スクール）」と呼ばれる「青空教室」で学んでいた。見張りの子どもを立てて、時には急遽場所を変えながら「垣根学校」は石垣で囲まれた農家の敷地内で教育を続け、子どもたちは石板で文字を学び、地面に文字を描いて記憶していた。こうして、アイルランド語（ゲール語群に属する）が伝えられ、生徒によってはこうした学校でラテン語までを学んでいた。18・19世紀に農村にあったこうした学校は、農民の子どもたちの識字率（リテラシー）を向上させていたが、ある意味では、日本の寺子屋に近い仕組みであった。

1855年には、アイルランドにおいて「公共図書館法」が成立したものの、1880年までに公共図書館法を可決した町はスライゴとダンドークだけであった²⁹⁾。いずれの地域でも図書館を作るだけの余力がなかった。カーネギー英国財団は『アダムズ報告』（1915）を受けて、二人のアイルランド人に図書館の実情調査を依頼した。劇作家のレノックス・ロビンソン（Lennox Robinson, 1886-1958）と図書館員のクルーズ・オブライエン（Cruise O' Brien）であった³⁰⁾。アメリカを含めカーネギー財団の支援は、自助努力が認めうるケースにのみ建物に対する資金を提供するものであった³¹⁾。二人の報告は、現状に対して否定的であった。特に農村の図書館に対する支援は失敗であると率直に認めていた。すなわち、農村には図書館施設を活用する余力さえなかったのである。何とか開設にこぎつけた農村では、図書館の施設をまず市民ホールとして、音楽会や様々な娯楽の催しに利用した。飢饉に打ちひしがれた農民にとって、まず必要なのは娯楽施設であった。図書館には本がほとんどなく、図書館の担当者も、場所によっては

鍛冶屋が受け持っていた。カーネギー英国財団への報告が勧告していたのは、小説以外の本の補給、および、常勤の図書館員の任命への支援であった。これを受けて1923年に「アイルランド学生中央図書館 (Irish Central Library for Students)」が創設されることとなった。この図書館は、ロンドンの「学生中央図書館 (Central Library for Students [1931年国立中央図書館となる])」の場合と同様、各地の公共図書館に本を提供するための中央貸出機構であったものの、相違は、イングランドの場合には市民の教育への自発的な意思をもとに設立されていたのに対し、アイルランドの場合には社会的な惨状を少しでも回復することを目的としていたところにあった。結局、この島国は、ジャガイモの大不作により、農民の国外流失からの人口減を招き、20世紀に入ってから文化関連の施設(教育・図書館)は衰退したままであった。

1900年1月に雑誌『アイルランド農家 (*Irish Homestead*)』に発表された「農村図書館の成立に向けての百冊の本」という「推薦図書リスト」がある³²⁾。このリストで目につくのは、イギリス型の教養書であり、スマイルズの『自助論 (*Self-Help*)』、および、リットン卿やマコーレイの歴史書であって、小説では、スコット、ゴールドスミスの作品や『宝島 (*Treasure Island*)』、『アンクル・トム の小屋 (*Uncle Tom's Cabin*)』、『不思議の国のアリス (*Alice in Wonderland*)』などが並ぶ。アイルランド人作家のものとしては、イエーツの詩集があり、

ダグラス・ハイド (Douglas Hyde, 1860-1949) の『アイルランドの文章史 (*A Literary History of Ireland*)』はあるが、全体としてはイギリスの伝統の鼓吹であった。アイルランド語の本は一冊もなく、この時期にはすでに英語が農村でも農民の主要言語となっていたことを知ることができる。

VII 背景：宗教

19世紀のアイルランドにあって、農民の大多数はカトリック教徒であり、小作農が多かった彼らを支配していたのはプロテスタント教徒の地主であって、その多くはイングランドに住んでいた。

ここで、再びコークとその周辺地区の宗派別人口の比率の例をあげてみよう。

表5より人口の圧倒的多数(特に郡部)がカトリック教徒であったのが分かって、カトリック教徒の人口が1861年から1871年にかけて減っているのに対し、プロテスタント教徒は宗派によりむしろ増えていたことが分かって。

宗教の対立が言語や教育、図書館などの文化的な要素にどのような影響をもたらしていたかについて、いくつかの事例をあげておこう。

その第一は、トリニティ・カレッジの図書館である。エリザベス一世により1592年にダブリンで発足したこの図書館は、プロテスタント教徒の教育機関であり、カトリック教徒は排除されていた。1637年の規約では、志願者は入学に

表5 宗派別人口とその比率³³⁾

	カトリック	プロテスタント				総計
		監督派教会	長老派教会	メソジスト	その他	
郡部 1861	426,894 (91.8%)	32,822 (7.1%)	1,118 (0.2%)	1,760 (0.4%)	2,103 (0.5%)	464,697 (100%)
郡部 1871	400,905 (91.5%)	31,297 (7.1%)	1,216 (0.3%)	2,228 (0.5%)	2,788 (0.6%)	438,434 (100%)
市部 1861	67,148 (83.8%)	10,632 (13.3%)	881 (1.1%)	893 (1.1%)	567 (0.7%)	80,121 (100%)
市部 1871	66,716 (84.8%)	9,196 (11.7%)	1,028 (1.3%)	718 (0.9%)	984 (1.3%)	78,642 (100%)

Mar. 2017

アイルランドにおける図書館の歴史の変遷

際して宣誓することを義務づけられており、カトリック教徒の地主の子弟はフランスかスペインで学ばざるをえなかった。1793年に議会はこの規制を緩める決議を下し、カトリック教徒も入学できるようになった³⁴⁾。しかし、1873年にアイルランドの大学を一本化しようとする法案がグラッドストーン (William Ewart Gladstone, 1809-1898) により議会に提出されるとカトリック教会の反感を買うことになり³⁵⁾、1875年にはカトリック大司教がカトリック教徒のトリニティ・カレッジへの入学反対の立場をとるようになった³⁶⁾。カトリック教会がトリニティ・カレッジへのカトリック教徒の入学を正式に認めたのは1970年である³⁷⁾。

公共図書館界でも同様な確執が起こっていた。アダムズ教授の勧告を受け、カーネギー英国財団は、アイルランドの公共図書館の支援計画をアイルランド側に任せるべく、10名の委員からなる「アイルランド諮問委員会」を1921年にダブリンで創設した。しかし、この委員会の事務局長であった劇作家のレノックス・ロビンソンが反カトリック系の雑誌に短編小説を発表したため、カトリック教徒の委員が辞意を表明し、委員会はこの後に分裂した³⁸⁾。

いずれの種類の図書館でも重要な職務となる資料選択にあつては、宗教観の対立が深刻な結果をもたらしている。宗教書はいずれかの傾向を示すのがごく当然のことなので、資料の選定が難しい。特にカトリック教徒を利用者とする図書館では、離婚や不倫や堕胎を扱った小説などは禁止の対象となっていた。

1922年のイギリス＝アイルランド和平協定をめぐり、アイルランドの独立派とイギリスの統治派との間に激しい争いが起こり、結果として、南部の26州は「アイルランド自由国」を、北部の6州はイギリスに所属する「北アイルランド」を宣言して、両者は対立した。カトリック教徒を主体とする「自由国」はその後に「アイルランド共和国」となり、プロテスタント教徒の多い「北アイルランド」はこれに対抗した。この間、都市の市庁舎にあった公共図書館のいく

つかは、戦火にさらされ、破壊されていた。南北の対立は第二次世界大戦後まで続き、特に北部の都市ではゲリラ戦の影響もあり公共建築も犠牲となっていた。

VIII 背景：民族と言語

アイルランドの言語はアイルランド語と英語であり、市街地の標識のほとんどはこの両国語で書かれているが、アイルランド語を話せる市民はきわめて少ない。イギリスの進出により、祖先の言語は次第に失われ、今ではこの島国の西部の限られた地域(ゴールウェイ地方その他)で使われるのみである。アイルランド語による出版も少数となり、ダブリンにはこの言語の出版物を扱う古書店もほとんどない。わずかにアイルランド国立図書館や大都市の公共図書館がコレクションを抱えているだけとなっている。特に農村では、19世紀まではアイルランド語による教育が行われており、安価な教科書も出回っていた。こうした教育が、飢饉に見舞われた西部の農村地帯で下火になると、アイルランド語の使用もしだいに減少していった。

自国の言語の消滅を憂えて、その普及運動が19世紀後期に展開された。運動の理論的指導者は言語学者のダグラス・ハイド (Douglas Hyde, 1860-1949) であり、実践グループはダブリンのアベイ劇場を拠点とする文学者および俳優のグループであった。「アイルランド文芸復興」と呼ばれるこの活動の主なメンバーは、劇作家のグレゴリー夫人 (Lady Isabella Augusta Gregory, 1852-1932) およびジョン・シンゲ (John Millington Synge, 1871-1909)、舞台女優のモード・ゴン (Maud Gonne, 1866-1953) その他であった。とはいえ、この運動も、19世紀後期の民族主義者たちによる独立への希求とそれへのイギリス政府の弾圧のなかで途絶えていった。ちなみに、グレゴリー夫人は熱心な図書館運動の支持者であり、カーネギー英国財団アイルランド委員会のメンバーであつて³⁹⁾、自費による農村図書館の普及活動の実践者でも

あった。

19世紀アイルランドの民族主義者にあつて、皮肉なのは、彼らの多くがイギリス生まれかあるいはイギリス人の家庭で育っており、その多くはアイルランド語に秀でたわけではなかったことである。「イースター蜂起」で主役を演じ、処刑されたジェームズ・コノリー (James Connolly, 1868-1916) およびパトリック・ピアース (Patrick Henry Pearse, 1879-1916) はともにスコットランドのエディンバラで生まれていた。政治家として独立運動の先頭にたち、議会でイギリスの宰相グラッドストンに対し「アイルランド自治」を互角に主張していたチャールズ・パーネル (Charles Stewart Parnell, 1846-1891) は、アイルランドの地主の息子であったが、ケンブリッジで学び、既婚のイギリス人女性とのスキャンダルで失脚していた。ヴィクトリア女王 (Queen Victoria, 1819-1901) から爵位を授けられたが、第一次世界大戦時に「反逆者」として爵位を剥奪され、処刑されたロジャー・ケイスメント (Roger Casement, 1864-1916) は北アイルランドのプロテスタント系地主の息子であった。女性の活動家モード・ゴンにいたってはアイルランド駐在のイギリス人将校の娘であり、もう一人の活動家で「イースター蜂起」に参加していたコンスタンス・マルキエビッチ (Constance Georgine Markievicz, 1868-1927) は、北アイルランドの地主の娘であったが、父はアイルランド貴族、母はイギリス貴族の娘であつて、ポーランドの没落貴族の画家と結婚し、彼の影響のもと民族の独立を志すようになっていた。政治家パーネルと外交官ケイスメントは特に読書に縁のない人たちであった。著名な人物のなかでアイルランド語を話せたのは、19世紀前期の民族主義者ダニエル・オCONNELL (Daniel O'Connell, 1775-1847)、および、独立戦争期に仲間の裏切りで射殺された、貧農出身のマイケル・コリンズ (Michael Collins, 1890-1922) その他であった。

2世紀以上にわたるイギリス人の支配と、自

然の災害という不幸な事態のため、アイルランドの文化は停滞を余儀なくされたが、国内戦争を経て1937年にエールとして独立したこの国は、第二次世界大戦後には、独自の国作りと文化の普及に取り組んでいた。外国資本を誘致し、産業の育成を刺激して、自動車産業、水産物加工、電子機器産業の振興に力を注いだ。教育制度と図書館活動も新たな出発を開始していた。その意味では、アイルランドの図書館の真の発展はその後の時期ということになる。そのなかで、アイルランドの図書館はいくつかの面で優れた成果を残していた。

Ⅹ 現代の図書館

近年のアイルランドの図書館にはいくつかの際立った特徴が見られる⁴⁰⁾。それはこの国の不幸な歴史に関連しているとともに、図書館がこの国の民族意識の象徴であった点を示していたからであろう。

第一に目立つのは、児童図書館の普及であり、この国がいかに将来を担う子どもたちの教育に期待しているかを示している。地方都市(コーク、キラニー、ウェストポート、ウォーターフォード、その他)の公共図書館では、児童部門がむしろ図書館サービスの中心となっているとの感がある。施設としても、利用者の態度としてもそれが見受けられる。児童図書館のコレクションは政治や宗教からは切り離されて存在しうるものであるがため、ここに力が注がれ、市民もそれに賛同し参加していると言える。コレクションの中心をなしているのは、アイルランドはもとより、イギリスとアメリカの児童書、ならびに、諸国からの翻訳作品である。これらは、原画と製本の面から見ても、値段としてはかなり高価であるが、その教育的意義を認めているためであろうか、資料購入費をいとわない姿勢がここに示され、コレクションは整備され、新刊のまま利用者に提供されているかにみえる。

第二に認められるのは、音楽関連資料の重視

Mar. 2017

アイルランドにおける図書館の歴史的変遷

である。大規模な図書館でも町の小規模な図書館でも、楽譜と音声関連の資料コレクションとその貸出にはきわめて積極的であるように見える。何世代にもわたり引き継がれてきたアイルランド人の音楽好きの伝統は知られた事実であり、ビートルズの音楽のルーツも彼らの祖父母たちの音楽にその源泉があった。この方面のコレクションは他の国と比較しても遜色なく豊かであることに気がつく。

自国の文化遺産の保存に熱心なことも、いずれの国にもあるにせよ、特にイギリスによる圧政という不幸な過去を持つこの民族の悲願であったことは確かであり、それは、国立図書館における詩人イェーツ、劇作家ジョン・シング、作家サミュエル・ベケット (Samuel Beckett, 1906-1989) 関係のコレクションに見られるし、過去の民族運動の歴史を示す資料はどの図書館でも競って収集している。アイルランド大主教マーシュ (Narcissus Marsh, 1638-1713) の図書館が受け継がれ公開されているのもその現れであった⁴¹⁾。

図書館をめぐるこうした活動は、アイルランド人の知識への信念と教育への確信に基づいていた。アイルランドの地方に見られる地主たちの石の塔は、風雨から蔵書を保護する手段であったと言われている。北アイルランドのダウン州を出て、勉学のためオックスフォードに行ったブロンテ姉妹の父親は典型的なアイルランドの若者であったし、自分たちだけで身を立てるべく、職工講習所の図書館から借りた本で勉強した娘たちもまた、アイルランド魂を継いでいた⁴²⁾。富裕な商人が築いた東洋絵画・印刷コレクションの「チェスター・ビーティ図書館 (Chester Beatty Library)」を買いあげて国有財産にしたのもこうした動きの一つであった。

最後に、北アイルランドの図書館についても述べておかねばならない。ベルファストにはすでに18世紀から宗教団体の図書館が発足していた。ここは、ノース海峡を隔ててイギリスに向きあい、産業革命を受けて、綿織物の工業都市を発達させ、新大陸への輸出港となって、造

船業も発達し、19世紀にはアイルランドでも有数の豊かな都市となっていた。税金による公共図書館の設立は1888年であったが、カーネギー英国財団の支援による北アイルランドの公共図書館の設立運動も成功していた。南部のアイルランド自由国と袂を分かって独立した1922年には「公共図書館法 (北アイルランド)」を成立させ、北アイルランド政府の教育省図書館委員会は全土にわたる公共図書館の普及に乗り出した。図書館関連の委員会報告が次々とまとめられ、図書館サービスは実行段階に移行した。これを背後から支えたのは、1964年の『ホーント委員会報告 (Hawnt Report)』で、北アイルランド全体にわたる図書館網の整備を勧告して、ベルファスト中央図書館は公共図書館のクリアリングハウスに位置づけられた。さらに、1965年に図書館司書養成を開始したベルファストのクイーンズ大学は、資格を持つ図書館員を輩出するようになった。こうして、連合王国に編入された北アイルランドは、特に大学図書館および公共図書館の普及により、急速にスコットランドの水準に追いついていった。

〔付 記〕

本稿は2015年度阪南大学産業経済研究所助成研究 (C)「イギリス図書館思想の研究」における研究成果の一部である。

注・引用文献

- 1) 図書館学研究者J・H・シェラは、図書館を「社会制度」として取りあげている論説を紹介しつつ、むしろ「社会機関」であると述べている。詳しくは次の文献を参照のこと。J・H・シェラ著、藤野幸雄訳『図書館の社会学的基盤』日本図書館協会、1978、50-53ページ。
- 2) 例えば『図書館情報学研究文献要覧 1991～1998』『図書館情報学研究文献要覧 1999～2006』『図書館情報学研究文献要覧』編集委員会編、日外アソシエーツ、2008-9.)の「歴史・事情」の項目を見ると、「アメリカ合衆国」に関する文献数は146点 (内訳：図書29点、雑誌記事99点、書評18点)、「イギリス」に関する文献数は56点 (内訳：図書12点、雑誌記事30点、書評14点)、「ドイツ」に関する文

- 献数は64点(内訳:図書11点, 雑誌記事45点, 書評8点)に対し,「ルーマニア」に関する文献数が2点,「アイスランド」,「デンマーク」,「ノルウェー」に関する文献数はそれぞれ1点であった。
- 3) カーネギー英国財団がオックスフォード大学のアダムズ教授に図書館調査を依頼,まとめられた報告書。*A Report on Library Provision & Policy*, by W. G. S. Adams to the Carnegie United Trustees, Edinburgh: Neill and Company, Limited, 1915, 104p.
- 4) Casteleyn, Mary, *A History of Literacy and Libraries in Ireland*, Aldershot: Gower Publishing Company Limited, 1983, p. 234.
- 5) Adams, W. G. S., *op. cit.*, pp. 62-67.
- 6) Casteleyn, Mary, *op. cit.*, p. 186.
- 7) Adams, W. G. S., *op. cit.*, p. 6.
- 8) Adams, W. G. S., *op. cit.*, p. 7.
- 9) 荒武鉄郎「リトアニア民族運動と識字率」『ロシア・東欧研究』, 3, 大阪外国語大学, 1999, 75ページ。
- 10) *The Cambridge History of Libraries in Britain and Ireland*, Cambridge: Cambridge University Press, 2006, 3vols.
- 11) イングランドとの比較で触れられた箇所は除く。
- 12) Casteleyn, Mary, *op. cit.*, p. 193.
- 13) *Francis Guy's County and City of Cork Directory*, 1875-76, cited in Casteleyn, Mary, *op. cit.*, p. 171. を参考に筆者が作成。
- 14) Ó Neill, Pádraig P., "Celtic Britain and Ireland in the early middle ages" *The Cambridge History of Libraries in Britain and Ireland*, Cambridge: Cambridge University Press, 2006, vol. 1, pp. 69-90.
- 15) McCann, Wesley, "Local library provision: 2 Belfast" *The Cambridge History of Libraries in Britain and Ireland*, Cambridge: Cambridge University Press, 2006, vol. 2, pp. 275-281.
- 16) Moran, Catherine and Quinn, Pearl, "The Irish library scene" *The Cambridge History of Libraries in Britain and Ireland*, Cambridge: Cambridge University Press, 2006, vol. 3, pp. 253-265.
- 17) Long, Gerard, "The National Library of Ireland" *The Cambridge History of Libraries in Britain and Ireland*, Cambridge: Cambridge University Press, 2006, vol. 3, pp. 266-275.
- 18) Moran, Catherine and Quinn, Pearl, *op. cit.*, pp. 264-265.
- 19) <https://www.tcd.ie/Library/epb/history.php> (閲覧日: 2016年6月23日)
- 20) <http://www.bodleian.ox.ac.uk/about-us/history> (閲覧日: 2016年6月23日)
- 21) <http://www.ucd.ie/readingeast/marsh.html> (閲覧日: 2016年6月23日)
- 22) Casteleyn, Mary, *op. cit.*, p. 91.
- 23) Long, Gerard, *op. cit.*, p. 268.
- 24) Taylor, Matthew, *The National Library of Ireland*, London: Scala Publishing, 2009, p. 6.
- 25) 当時, イギリスの出版物はトリニティ・カレッジに納本されていた。
- 26) Long, Gerard, *op. cit.*, pp. 272-273.
- 27) *Ibid.*, p. 273.
- 28) 高橋哲雄『アイルランド歴史紀行』筑摩書房, 1991, 86ページ。
- 29) Moran, Catherine and Quinn, Pearl, *op. cit.*, p. 253.
- 30) *Ibid.*, p. 255.
- 31) 山本順一編『新しい時代の図書館情報学』有斐閣, 2013, 27-29ページ。
- 32) Casteleyn, Mary, *op. cit.*, p. 181. にそのリストが掲載されている。
- 33) Casteleyn, Mary, *op. cit.*, p. 172.
- 34) *The Oxford Companion to Irish History*, 2nd ed., edited by S. J. Connolly, Oxford: Oxford University Press, 2002, p. 582.
- 35) 田口仁久『イギリス教育史: スコットランドとアイルランド』文化書房博文社, 1993, 237-238ページ。
- 36) 宇田川晴義『アイルランド高等教育の発展』尚文社ジャパン, 2011, 39ページ。
- 37) 宇田川晴義, 前掲書, 44ページ。
- 38) Moran, Catherine and Quinn, Pearl, *op. cit.*, p. 259.
- 39) Casteleyn, Mary, *op. cit.*, p. 190.
- 40) 2007年から2016年にかけてアイルランド各地(ダブリン, ゴールウェイ, ウォーターフォード, リムリック, キラーニー, コーク, ベルファスト, その他)の図書館を実際に訪問し調査した。その内容をまとめた。
- 41) マーシュ図書館については次の文献を参照のこと, McCarthy, Muriel, *All Graduates & Gentlemen: Marsh's Library*, Dublin: O'Brien Press, 1980, 239p.
- 42) 次の文献を参照のこと, 藤野幸雄『ブロンテ家の物語』勉誠出版, 2000, 1-350ページ。

参考文献

アイルランドの図書館について書かれた図書は少ない。全歴史を取りあげた唯一の図書は, Casteleyn, M., *A History of Literacy and Libraries in Ireland: the Long Traced Pedigree*, Aldershot: Gower Publishing Co., 1984, 255p. であるが, これには出版と成人教育が扱われており, 引用への参照はほとんどな

Mar. 2017

アイルランドにおける図書館の歴史の変遷

く、巻末の「参考文献」に採録されている図書と論文は93点である。個別の図書館史では、歴史の長いトリニティ・カレッジについては Kinane, V. and Walsh, A., eds., *Essays on the History of Trinity College Library, Dublin*, Dublin : Trinity College, 2000, 206p. や Fox, Peter, *Trinity College of Library Dublin : A History*, Cambridge : Cambridge University Press, 2014, 397p. などがあるが、国立図書館については、Taylor, Matthew, *The National Library of Ireland*, London : Scala Publishing, 2009, 96p. や *National Library of Ireland*, Edinburgh : Book on Demand Ltd., 2013, 108p. といった案内書やデータブック（後者の図書はWikipediaのデータに基づいてまとめられている）が刊行されているのみである。他に特殊図書館を扱ったものとして McCarthy, Muriel, *All Graduates & Gentlemen : Marsh's Library*, Dublin : O'Brien Press, 1980, 239p. および, Horton, Charles, *The Formation of library of A. Chester Beatty : 1910-1932*, Master's thesis, London : University of London, 1999. がある。図書館ではないが、19世紀の農村での教育と読書を支えていた「垣根学校」については Dowling, P. J., *The Hedge Schools of Ireland*, Rev. ed., Cork : Mercier Press, 1968, 182p. がある。

本稿執筆のために以下の文献も参考にした。

- International dictionary of library histories*, edited by David H. Stam, Chicago: Fitzroy Dearborn, 2001, 2vols.
- The Oxford Illustrated History of Ireland*, edited by R. F. Foster, Oxford : Oxford University Press, 1989, 382p.
- Woodham-Smith, Cecil, *The Great Hunger Ireland 1845-1849*, London : Penguin Books, 1991, 510p.
- 岩波書店辞典編集部編『岩波世界人名大辞典』岩波書店, 2013, 2冊。
- 鈴木良平『アイルランド建国の英雄たち：1916年復活祭蜂起を中心に』彩流社, 2003, 1-374ページ。
- 須永和之「18世紀のアイルランドの図書館：マーシュ図書館とリネン・ホール図書館」『沖縄国際大学総合学術研究紀要』, 2(1), 沖縄国際大学, 1997, 21-34ページ。
- 永田善文『ケルトを旅する52章 イギリス・アイルランド』明石書店, 2012, 1-370ページ。
- 堀越智『アイルランドの反乱』三省堂, 1970, 1-241ページ。
- “1877-1926” <http://www.nli.ie/en/history-of-the-library-1877-1926.aspx> (閲覧日：2016年7月15日)
- “1927-present” <http://www.nli.ie/en/history-of-the-library-1927-to-present.aspx> (閲覧日：2016年7月15日)

“History of the Library” <http://www.nli.ie/en/history-of-the-library.aspx> (閲覧日：2016年7月15日)

アイルランドの図書館：文献案内

参考までに *The Cambridge History of Libraries in Britain and Ireland*, 2006 (全三巻) 巻末の「主要参考文献」にあげられているアイルランド関係の図書と論文の一覧表を付しておこう。全三巻で重複した文献は一つにまとめてある。

- Adams, J. R. R., *The Printed Word and the Common Man : Popular Culture in Ulster 1700-1900*, Belfast, 1987.
- Apt Partnership, *The Apt Review : A Review of Library and Information Co-operation in the UK and Republic of Ireland*, Sheffield, 1995.
- Archer, W., *Suggestions as to Public Library Building : Their Plan and Construction, Best Adapted to Effect Economy of Space (and, Hence, Saving of Cost), and at same time Most Conductive to Public, as well as Administrative, Convenience, with More Especial Reference to the National Library of Ireland*, Dublin, 1881.
- ARLIS/UK and Ireland, *Guidelines on Stock Disposal*, Bromsgrove, 2000.
- Bailey, K. C., *A History of Trinity College Dublin 1892-1945*, Dublin, 1947.
- Barnard, T. C., ‘The purchase of Archbishop Ussher's library in 1657’ *Long Room*, 4, 1971, pp. 9-14.
- Barry, J., ‘Policy of the Library Association of Ireland’ *An Leabharlann*, 7, 1940, pp. 71-78.
- Bilboul, R. B., ed., *Retrospective Index to Theses of Great Britain and Ireland 1716-1950*, Oxford, 1975, 5vols.
- Blake, M., *A History of the British and Irish Association of Law Librarians 1969-1999*, Warwick, 2000.
- Bloomfield, B. C., ed., *A Directory of Rare Books and Special Collections in the United Kingdom and the Republic of Ireland*, 2nd ed., London, 1997.
- British and Irish Association of Law Librarians, *Directory of Law Libraries in the British Isles*, 2nd ed., Yeovil, 1984; 7th ed., Warwick, 2002.
- Brown, S. J., ‘The Hospital Library Service’ *Irish Library Bulletin*, 11, 1950, pp. 208-210.
- Brown, S. J., *Libraries and Literature from a Catholic Standpoint*, Dublin, 1937.
- Brown, T. J., ‘The oldest Irish manuscripts and their late antique background’ *Irland und Europa*, edited by P. Ni Chatháin and M. Richter. Stuttgart, 1984, pp. 311-327.

- Butler, H., 'The county libraries: sex, religion and censorship' *Grandmother and Wolfe Tone*, Dublin, 1990, pp. 50-63.
- Byrne, B., 'Law libraries in Ireland' *Law Librarian*, 21, 1990, pp. 53-58.
- Byrne, F. J., *A Thousand Years of Irish Script*, Oxford, 1979.
- Carnegie United Kingdom Trust, *Glimpses at the Rural Library Problem in Ireland*, Dunfermline, 1915, 2vols.
- Casteleyn, M., *A History of Literacy and Libraries in Ireland: the Long Traced Pedigree*, Aldershot, 1984.
- Central Catholic Library: *The First Years of an Irish Enterprise*, Dublin, 1932.
- Charles-Edwards, T. M., 'The context and uses of literacy in early Christian Ireland' *Literacy*, pp. 62-82.
- Chomhairle Leabharlanna, *The University of the People: Celebrating Ireland's Public Libraries*, Dublin, 2003.
- Cole, R. C., 'Private libraries in eighteenth century Ireland' *Library Quarterly*, 44, 1974, pp. 231-247.
- Collins, T., *Floreat Hibernia: a Bio-Bibliography of Robert Lloyd Praeger*, Dublin, 1985.
- Commission on the Science and Art Department in Ireland, *Report*, London, H.C., 1868-9 (4103), 1869, 2vols.
- County Libraries in Great Britain and Ireland: *Statistical Report 1934-5*, London, 1936.
- Cruickshank, D., 'Berkeley Library: Trinity College Dublin 1967-1997' *RIBA Journal*, 104 (10), 1997, pp. 69-75.
- Dean, J., 'Policies and programmes in library and information studies at University College, Dublin' *An Leabharlann*, 7, 1978, pp. 78-87.
- Devlin, F., 'Brightening the countryside: the library service in rural Ireland, 1902-1935', unpublished PhD thesis, St. Patrick's College, Maynooth, 1990.
- Ellis-King, D., 'Decades of aspiration: public libraries 1947-87', in An Chomhairle Leabharlanna, *The University of the People: Celebrating Ireland's Public Libraries*, Dublin, 2003, pp. 43-55.
- Etchingham, C., *Church Organization in Ireland AD 650 to 1000*, Maynooth, 1999.
- Ferriter, D., 'The post-war public library service: bringing books "to the remotest hamlets and hills"', in An Chomhairle Leabharlanna, *The University of the People: Celebrating Ireland's Public Libraries*, Dublin, 2003, pp. 67-77.
- Fox, P., 'The librarians of Trinity College', in Kinane and A. Walsh, eds., *Essays on the History of Trinity College Dublin*, Dublin, 2000.
- Fox, P., ed., *Treasures of the Library: Trinity College Dublin*, Dublin, 1986.
- Gougaud, L., 'The remains of ancient Irish monastic libraries' *Féil-Sgríbhinn Eóin Mhic Néill*, edited by J. Ryan, Dublin, 1940, pp. 319-334.
- 'Government libraries in Northern Ireland' *Northern Ireland Libraries*, 9, 1974, pp. 44-6.
- Grimes, B., *Irish Carnegie Libraries: A Catalogue and Architectural History*, Dublin, 1998.
- Grimes, B., "'Will not be heard of again': a proposal to combine the resources of the National Library and Trinity College Library' *Long Room*, 46, 2001, pp. 18-22.
- Gwynn, A., 'Archbishop FitzRalph and the friars' *Studies: An Irish Quarterly Review*, 26, 1937, pp. 50-67.
- Gwynn, A., *The Irish Church in the Eleventh and Twelfth Centuries*, ed., G. O'Brien, Dublin, 1993.
- Gwynn, A. and Hadcock, R. N., *Medieval Religious Houses: Ireland*, London, 1970.
- Henchy, P., 'The Joly family and the National Library' *Irish University Review*, 7, 1977, pp. 184-198.
- Henchy, P., *The National Library of Ireland, 1941-1976: A Look Back*, Dublin, 1986.
- Hogan, D., *The Legal Profession in Ireland 1789-1922*, Dublin, 1986.
- Hood, S., *Royal Roots-Republican Inheritance: the Survival of the Office of Arms*, Dublin, 2002.
- Hughes, K., 'The distribution of Irish scriptoria and centres of learning from 730 to 1111', in N. K. Chadwick, K. Hughes et al., eds., *Studies in the Early British Church*, Cambridge, 1958, pp. 243-72.
- Jefcoate, G., and others, *A Guide to Collections of Books Printed in German-Speaking Countries before 1910 (or in German elsewhere) held by Libraries in Great Britain and Ireland*, Hildesheim, 2000.
- Kaufman, P., 'Community lending libraries in eighteenth-century Ireland and Wales' *Library Quarterly*, 33, 1963, pp. 299-312.
- Kelly, J., ed., *The Collected Letters of W. B. Yeats*, Oxford, 1994, vol. 3.
- Kennedy, M., 'Civic pride versus financial pressure: financing the Dublin Public Library service, 1884-1920' *Library History*, 9, 1992, pp. 83-96.
- Kennedy, M., 'Plans for a central reference library for Dublin 1883-1946' *An Leabharlann*, 2nd series, 7, 1991, pp. 113-125.

Mar. 2017

アイルランドにおける図書館の歴史的変遷

- Kenney, J. F., *The Sources for the Early History of Ireland : Ecclesiastical*, New York, 1929 : repr. with revisions by L. Bieler, New York, 1966.
- Kenny, C., 'Counsellor Duhigg: antiquarian and activist' *Irish Jurist*, 21, 1986, pp. 300-325.
- Kenny, C., *King's Inns and the Battle of Books, 1972 : Cultural Controversy at a Dublin Library*, Dublin, 2002.
- Kenny, C., *King's Inns and the Kingdom of Ireland : the Irish' Inn of Court' 1541-1800*, Dublin, 1992.
- Keogh, C. A., *Report on Public library Provision in the Irish Free State, 1935*, Athlone, 1936.
- Kerry, D. A., *A Guide to Theological and Religious Studies Collections of Great Britain and Ireland*, London, 1999.
- Killen, J., *A History of the Linen Hall Library 1788-1988*, Belfast, 1990.
- Kinane, V., 'Legal deposit, 1801-1922', in Kinane and Walsh, eds., *Essays on the History of Trinity College Library*, Dublin, Dublin, 2000, pp. 120-37.
- Kinane, V. and Walsh, A., eds., *Essays on the History of Trinity College Library*, Dublin, Dublin, 2000.
- Kirkpatrick, T. P. C., *Ernest Reginald McClintock Dix (1857-1936)*, *Irish Bibliographer*, Dublin, 1937.
- Kissane, N., ed., *Treasures from the National Library of Ireland*, Drogheda, 1994.
- Lea, E. R. M., and Jesson, A. F., *A Guide to the Theological Libraries Great Britain and Ireland*, London, 1986.
- 'An Leabhar Chumann, Book Association of Ireland' *Irish Library Bulletin*, 6, 1945, pp. 21-22.
- 'An Leabhar-Chumann, Book Association of Ireland : objects, advantages and conditions of membership' *Irish Library Bulletin*, 6, 1945, p. 64.
- Legg, M. L., 'The Kilkenny Circulating-Library Society and the growth of reading rooms in nineteenth-century Ireland', in B. Cunningham and M. Kennedy, eds., *The Experience of Reading : Irish Historical Perspectives*, Dublin, 1999, pp. 109-23.
- Library and Information Services Council, *Library and Information Plan for Northern Ireland*, Belfast, 1990.
- Library Association, County Libraries Section, *County Libraries in Great Britain and Ireland : Statistical Report 1938-9*, London, 1940.
- Long, G., 'The foundation of the National Library of Ireland, 1836-1877' *Long Room*, 36, 1991, pp. 41-58.
- Long, G., 'The National Library of Ireland' in N. Buttimer and others, eds., *The Heritage of Ireland*, Cork, 2000, pp. 305-312.
- Lyster, T. W., 'Great Irish book collectors: Jasper Robert Joly' *Irish Book Lover*, 5 (12), 1921, pp. 99-101.
- Lyster, T. W., 'The National Library of Ireland' in Department of Agriculture and Technical Instruction for Ireland, *Ireland Industrial and Agricultural*, Dublin, 1902, pp. 302-303.
- McCarthy, M., *All Graduates and Gentlemen : Marsh's Library*, Dublin, 1980 : 2nd ed., 2003.
- McCarthy, M., and Simmons, A., eds., *The Making of Marsh's Library*, Dublin, 2004.
- McCarthy, M., and Whelan, R., *Ancient Bestsellers : Archbishop Marsh's Library*, Dublin, Dublin, 1989.
- McDowell, R. B. and Webb, D. A., *Trinity College Dublin 1592-1952 : An Academic History*, Cambridge, 1982.
- MacInerney, M. H., 'Catholic lending libraries' *Irish Ecclesiastical Record*, 19, 1922, p. 577.
- Mac Lochlainn, A., 'The National Library of Ireland, 1877-1977' *Irish University Review*, 7, 1977, pp. 157-167.
- Mac Lochlainn, A., "Those young men..." : the National Library of Ireland and the cultural revolution' *Writers, Raconteurs and Notable Feminists : Two Monographs*, Dublin, 1993.
- MacNeill, E., 'Beginnings of Latin culture in Ireland' *Studies : An Irish Quarterly Review*, 20, 1931, pp. 39-48, pp. 449-60.
- Magee, W. K., *Irish Literary Portraits*, London, 1935.
- Meehan, C., 'An Leabhar-Chumann -The Book Association of Ireland Children's Book Week' *Irish Library Bulletin*, 5, 1944, pp. 71-3.
- Meenan, J. and Clarke, D., eds., *RDS : the Royal Dublin Society 1731-1981*, Dublin, 1981.
- Mitchell, J. M., *The Public Library System of Great Britain and Ireland, 1921-3*, Dunfermline, 1924.
- Moran, C., 'Fr. Stephen J. Brown, S. J. : a library life 1881-1962', unpublished MLIS thesis, University College Dublin, 1998.
- Mowat, I. R. M., 'The Oireachtas Library, Leinster House, Dublin' *State Librarian*, 26, 1978, pp. 40-41.
- National Library of Ireland, *Strategic Plan 1992-1997*, Dublin, 1992.
- Neligan, A., ed., *Maynooth Library Treasures : from the Collections of Saint Patrick's College*, Dublin, 1995.
- Nelson, C., and Seccombe, M., *British Newspapers and Periodicals, 1641-1700 : a Short Title Catalogue*

- of Serials Printed in England, Scotland, Ireland and British America*, New York, 1987.
- Neylon, M. J., 'King's Inns Library, Dublin' *Law Librarian*, 4, 1973, pp. 3-4.
- O' Dwyer, F., *The Architecture of Deane and Woodward*, Cork, 1997.
- O hAodha, M., 'Irish rural libraries: glimpses of the past' *Library History*, 18, 2000, pp. 49-56.
- Ó Néill, P. P., 'The impact of the Norman invasion on Irish literature' *Anglo-Norman Studies*, 20, 1998, pp. 171-185.
- O' Sullivan, W., 'A finding list of Sir James Ware's manuscripts' *Proceedings of the Royal Irish Academy*, Section C, 97 (2), 1997, pp. 69-99.
- O' Sullivan, W., 'The Irish "remnaunt" of John Bale's manuscripts', in R. Beadle and A. J. Piper, eds., *New Science out of Old Books : Studies in Manuscripts and Early Printed Books in Honour of A.I. Doyle*, Aldershot, 1995, pp. 374-87.
- O' Sullivan, W., 'The palaeographical background to the Book of Kells', in F. O' Mahony, ed., *The Book of Kells*, Aldershot, 1994, pp. 175-182.
- Pearson, J. D., *Oriental Manuscript Collections in the Libraries of Great Britain and Ireland*, London, 1954.
- Plummer, C., 'On the colophons and marginalia of Irish scribes' *Proceedings of the British Academy*, 12, 1926, pp. 11-44.
- Pollard, M., *Dublin's Trade in Books 1550-1800*, Oxford, 1989.
- 'Prohibition and propaganda' *Irish Library Bulletin*, 5, 1944, p. 37.
- Robinson, L., ed., *Lady Gregory's Journals 1916-1930*, London, 1946.
- Roe, J., 'The public library in Wales : its history and development in the context of Local government', Unpublished Master's thesis, Queen's University of Belfast, 1970.
- Royal Commission to Enquiry into the State, Discipline, Studies and Revenue of the University of Dublin and Trinity College, Dublin University Commission, *Report*, Dublin, 1853.
- Select Committee on Scientific Institutions, Dublin, *Report*, London, H.C., 1864.
- Select Committee on Royal Dublin Society, *Report*, London, H.C., 1836.
- Tallon, M., *Church of Ireland Diocesan Libraries*, Dublin, 1959.
- Wallace, M., 'Issues for government Libraries' *An Leabharlann*, 12, 1995-6, pp. 61-5.
- Walsh, A., 'The library as revealed in the Parliamentary Commission of 1853', in Kinane and Walsh, eds., *Essays on the History of Trinity College Library*, 2000, pp. 138-50.
- Walsh, R., 'Libraries' *Saorstát Éireann Irish Free State Official Handbook*, Dublin, 1932, p. 209.
- Waterer, J. W., 'Irish book-satchels or budgets' *Medieval Archaeology*, 12, 1968, pp. 70-82.
- Wilson, R. N. D., *The County Library Service in Ireland*, Dunfermline, 1927.

(2016年11月18日掲載決定)